

KOFU21

Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ



〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨YMCAグローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543 fax055-235-8553
Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	ウルリック・ラウリドセン(デンマーク)	「輝かそう、あなたの光を」	甲府21ワイズメンズクラブ 2024年6月会報 今月の強調テーマ YMCA サポート/ 評価/次年度計画
アジア太平洋地域会長	利根川恵子(川越)	「変革のための光となろう」	
東日本区理事	山田公平(宇都宮)	「未来のために今、学びと気づきを! 未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う!」	
あずさ部部長	森本俊子(長野)	「よい結果をもたらす心の安定と考える力」	
甲府21クラブ会長	小澤公紀	「みんな一緒に、1つの目標(YMCAの支援)に向かって行動しよう」	

【今月の聖句】

選・松村 禎夫

(コロサイ書 3章23節)

「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。」

6月 巻頭言



会長 小澤公紀

2023～2024年度最終月となりました。
今年度最後のビッグイベントである「チャリティーラン」のお手伝いがまだ残っておりますが、次期興水年度への期待をもって、引き継いでいきたいと思っております。

今期、これまでのクラブ員皆様のご協力と執行部役員の皆様の支えにより、大過なく経過できたことに改めてこの紙面をかりて御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて今年度を振り返ってみますと、世の中の的にはコロナウィルスの第5類移行をみて全ての人々が活動的になり、一見コロナ禍以前の生活に戻ったように思えますが自分自身を含め、日常の行動に以前との変化を感じております。

それは、個々人での行動が増えた事、手軽にインターネットでの情報入手ができる事等、人とのつながりが少ない日常を経験した事で、他者とのリアルなコミュニケーションが少なくなっているのではと特に強く感じられるからです。

現在の子供たちの未来の為に必要な「持続可能な世界」の実現に向かって一歩でも近づく為には、世代を超えた人達とのコミュニケーションを増やし、夫々の考え方や経験を学び、互いの思いを知る機会を作ることが必要であると考えます。

私達 Ys メンの大切な役割である「YMCAの支援」を通じて、ユースの皆さんとの交流の機会を今後も続けていけたらと思っております。

以上、今期の皆様のご協力に改めて感謝するとともに、新会長興水年度の更なるご発展を期待し、お祈り申し上げます。ありがとうございました。

6月第一例会プログラム

2024年6月4日(火) 19:00～

会場：山梨YMCA3階大澤英二記念ホール「ベテル」

- | | |
|--------------------|--------------------|
| | 司会 佐藤哲郎 |
| 1. 開会点鐘 | 小澤公紀会長 |
| 2. ワイズソング・ワイズの信条 | |
| 3. 今月の聖句・一言 | 松村禎夫ワイズ |
| 4. 会員一言 | 奈良田和也ワイズ |
| 5. 会長挨拶、ゲスト紹介 | 小澤公紀会長 |
| 6. ハッピーバースデー | |
| 7. ワイズディナー | |
| 8. ゲスト卓話「山梨いのちの電話」 | 高戸宣人理事長 |
| | 演題「山梨いのちの電話は地域と共に」 |
| 9. YMCA 報告・諸報告 | |
| 10. YMCA の歌 | |
| 11. 閉会点鐘 | 小澤公紀会長 |

《6月の誕生者》 Happy Birthday!

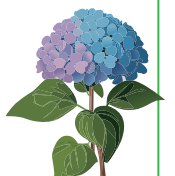
〈メン〉

野々垣健五(5日)
寺田喜長(13日)
水越正高(14日)
杉田博子(15日)
奈良田和也(16日)
野々垣和宏(21日)
清水公一(24日)

〈メネット〉

赤根教子(9日)
古屋律子(26日)

[敬称略]



2024年5月例会報告

書記 寺田喜長

日時：2024年5月7日（火）19：00～
会場：山梨 YMCA3 階大澤英二記念ホール「ベテル」

清藤城宏ワイズの司会、小澤会長の点鐘にて定刻に開会、杉田ワイズに奏楽をお願いしてワイズソングを斉唱、32名の歌声がホールに響き渡りました。古屋ワイズが大変お忙しい中、時間を割いて出席され今月の聖句・一言を担当下さいました。「任期2カ月余りの中、大きな行事が続きますが多くの意を同じくする仲間達との共同事業にて明日を担う若者や、はるか先の将来を引き継ぐ今の子供たちに何かを伝えることが出来ると考えます。皆様の積極的願な参加をお願いします」との会長挨拶、ゲストの江口英雄氏、志村尚樹氏、しらいみちよさんを紹介、入会を示唆されたゲスト発言に盛り上がり、しらいさんからは能登半島地震チャリティーコンサートの開催について紹介、協力依頼が有りました。会員一言は後藤ワイズがネットでの購入で詐欺に会い、まさか自分が被害者にとはと、思いがけない体験を語り注意を促して下さいました。

会員卓話を末木咲子ワイズに担当頂き日頃の市政での取り組みの一つ「多文化共生地域づくり」の紹介が有りました。比較的外国人住民率が高い甲府市で多様な外国人が日常生活を送る為の行政機関での対応、例えば行政窓口での多言語音声翻訳サービスの活用や行政中心に多言語翻訳技術の研究開発、外国人の地域おこし協力隊、認定日本語教育機関及び登録日本語教員の活用等を取り入れて急速に進む外国人移住者が住みやすい教育環境、母子保健等の整備を進めているとのお話でした。今後重要な働き手となる方々の受け入れ態勢が進んでいることを知りました。



本日の卓話

NPO法人山梨いのちの電話
理事長 高戸 宣人様

略歴

- 1952年 岡山県津山市生まれ
- 1974年 東京教育大学心理学科卒、山梨県職員採用児童相談所、北病院等に勤務（2012年退職）
- 2000年 山梨いのちの電話に参加
- 2019年 3代目の理事長就任



山梨いのちの電話
電話相談 055-221-4343
毎週火曜日～土曜日 午後4時～午後10時
通話料がかかります

今後の予定

6月

- 1日（土）～2日（日） 東日本区大会 十勝
- 4日（火） 第1例会 19時
- 9日（日） チャリティーラン
- 18日（火） 第2例会 18時半

7月

- 2日（火） キックオフ例会（興水年度）

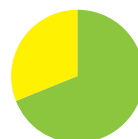
【会計報告】

2024年5月末現在



項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
5月の合計	33,761	0	0	33,761
5月末迄累計	359,957	308,529	52,000	720,486
達成率	144.0%	308.5%	104.0%	180.1%

《5月例会の出席者》



69%

会員数	42名
第一例会出席者	26名
その他行事参加者	3名
総出席者数	29名
出席率	69%

あずさ部 評議会報告

飯田 剛

◇日時 5月11日 午後1時～

◇会場 東京YMCA山手センター

第 3 回あずさ部 箱根山評議会が東京 YMCA で実施されました。この評議会の命名の箱根山とは、近くに在る、新宿区、戸山公園内の一番高い所を、箱根山と呼ぶ事になったとか・・・面白い地元の話から始まりました。

やはり、各クラブの活動報告が主になりましたが、会員減少により 2 クラブ合同例会をせざるを得なくなった。等。相変わらず中長期的には深刻な問題で、どのクラブでも課題として、お題目は唱えていても、何の進展もしていない様子でした。

我が甲府 21 クラブが、ユース事業を、具体的に、積極的に、実施・支援している事は、特筆すべきことと思いました。個人的にも清藤さまが、受け入れた、ユース・ステイ等を、もっと時間をかけて、小澤会長の話を皆様にも、聞いていただける時間がほしかった。大変難しい事だが、甲府 21 クラブにおいても、常に、主題と考えたい。こんな感想を、毎度のように、持ち帰りました。



第27回東日本区大会 [速報]

詳細は次号でご報告



「日本での百年」を辿って

カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]
グウェン・R. P. ノルマン 著
後藤 哲夫 訳
One Hundred Years In Japan, Part 1: 1873-1923

後藤 哲夫

第 5 回 「汝の敵を愛す」

敵を愛し、迫害するもののために祈れ。

カナダ・メソジスト教会の日本伝道は、二人の宣教師カックラン、マクドナルドによって始められたが、夫人たちの働きがなかったなら、成功しなかつただろう。やがて、女性たちによる多くの伝道活動の場があることにいち早く気づいたのは、イビーだった。彼は婦人宣教協会 (Woman's Missionary Society)、通称 WMS の結成を本国に要請した。だがすでに宣教局総書記サザーランドもまたその必要性を強く感じ、『アウトLOOK』誌へ投稿したり、教会の婦人層に訴えたり、援助者を募ったりしていた。

1881年11月8日、ハミルトン市ウェスレアン女子大学で開かれたメソジスト教会総会で、ついにカナダ婦人宣教協会の設立が決議された。

その年(1882年)12月、WMSの代表委員が、「宣教師の間ではよく知られた一人の若い婦人の家を訪れた。もちろん、日本伝道への同意を得ようとしたことであった」。彼女こそWMS設立の議案を提出したカートメルその人であった。彼女は、翌1882年9月、ハミルトン市センテナリー教会で開かれたWMS第1回年会で日本伝道に任命された。次いで11月3日、送別会が同じ教会で開催された。出席し激励の言葉を述べた牧師たちの顔ぶれはそうそうたるものだった。同教会牧師W・W・カーソンが進行役を務めた。年会報告書にはWMSの会長と書記も「また出席していた」と書かれている。ハミルトン市の婦人グループから集められたたくさんの献金が、彼女たちからでもなく、特定の一人からでもなく、デニス・

ムア氏の手を通してカートメルに贈られた。W・G・サザーランド牧師が彼女に代わり「一同の心を打つ適切な言葉」でお礼を述べた。カートメルは12月5日「シティー・オブ・トーキョー」丸に乗って出発した。彼女は宣教局の事務所を通じて月給600ドル、備品費250ドルを支給された。

1883年第二回年会で、帰国したばかりのミーチャム夫人の妹、ミス・モールトンは、若い女性の家庭教育が日本では必要であると強調した。そしてカートメルから送られた数カ月間の報告書がにわかに注目を浴びた。彼女は通学制の学校を設立し、日本で伝道に携わる婦人を訓練したいと願っていた。活動費の予算は承認され、その中には二人目の宣教師の給与と経費、婦人伝道師 (Bible reader) で助手である和田 [夫人] の給与、また申請された学校のための250ドルが含まれていた。

その間、カートメルは日本語を学んだり、病人の家を訪問したり、婦人のための祈禱会を開催した。イビーとミーチャムはその働きを高く評価したが、とりわけ何人かの青年と一緒に働いた仕事を賞賛した。7、8人の者が週3時間英語を習いにやってきたが、彼女は「日曜日に、築地の教会の自分のクラスに出席する」という条件を確かめてから、彼らを受け入れた。ほとんど皆受洗している。英語のクラス以外は、カートメルは通訳の助けを借りて活動しなければならなかった。

ここでカートメルは「学校を設立し、日本で伝道に携わる女性を訓練したい」と述べている。彼女は1882年12月27日横浜に到着し、外国人居留地にあるカナダミッションの宣教師館に住むこととなる。東洋英和女学校の創立は1884年であった。静岡英和女学校は1887年、山梨英和女学校は1889年に設立された。伝道に携わる女性とは、婦人伝道師 (バイブル・ウーマン) のことで、甲府出身の和田まつの名が記されているが長くなるので次回に述べたい。

ところで、カートメルは、東洋英和女学校の初代校長であったが1年で辞任している。過労のため健康を害し、静養しなければならなくなったからである。1885年から1890年まで、ライザ・スペンサーが2代校長を務めた。彼女は男子ミッション東洋英和学校の教師 T・A ラージ氏と結婚したが、1890年悲劇が起こる。ラーズ氏斬殺事件です。この出来事は、『カナダ婦人宣教師物語』（東洋英和女学院刊）37頁に感動的に描かれているが、ここに一部抜粋し、また省略して載せたい。



1890年4月4日の夜半のことです。イースターの休暇予定を早めてラーズ一家は帰宅しました。校長室に就寝していた時、日本刀を持った二人の強盗が侵入し、それを阻もうとしたラーズ氏は、右肩ほか十数

カ所に及ぶ傷を負い、即死しました。そのもの音に驚いたミセス・ラーズは寝室からかけ出した所を斬りつけられ、右の額を切られ右手の人差し指と中指を切断されてしまいました。異変に気づき寄宿生たちが騒ぎ出したために、賊は何も取らずに逃げ去りました。彼女は重傷を負っていたにも拘わらず、極めて冷静に対処し、マクドナルド博士に連絡をとらせ、校主平岩愼保に電報を打たせるなどしました。ラーズ氏の葬儀は4月7日麻布教会（原鳥居坂教会）で執り行われた。事件後、ミセス・ラーズは犯人の罪をゆるし、この事件を日本の国の幸いとなるように取りなして欲しい、と祈ったと平岩牧師は述べている。彼女は犯人を憎まず、一旦カナダに帰国しますが、一年後に再び伝道活動のため日本に戻ってきます。

聖書に「汝の敵を愛し、迫害するもののために祈れ」という言葉が出てきますが、これは実

行困難な言葉です。今、ウクライナとロシア、イスラエルとハマスほか世界各地で起こっている紛争を見ると、やられたらやり返すの連鎖が続いています。ここでは平和（ヘブライ語のシャローム）という言葉が空しく聞こえます。なんと人間は愚かなのでしょうか。ラーズ事件を知って甲府から校長ウイントミュートとミス・ランドがミセス・ラーズのもとに急遽駆けつけます。「慰めるつもりがかえって、慰められ、励まされた」と、ウイントミュートは後に手紙の中で書いています。婦人宣教師たちの内面的絆、究極の時にも神に身を任せ、信頼する姿に互いに深い慰めと力を感じたのではないだろうか。「汝の敵を愛す」を今、私たちはどのように実行したら、平和が訪れるのだろうか。日々の報道に憂鬱になるこの頃である。

ブリテン委員長野々垣です。

今号の後藤先生の連載を拝見しながら、以前知ったオノヨーコさんのことを思い出しております。

オノヨーコさんは、「今あなたに知ってもらいたいこと」の中で1980年12月8日を回想しています。

ジョンレノンが亡くなったあとのオノヨーコさんのもとには、追い討ちをかけるように、いろんな人がイヤなことを言ってきたそうです。

でも、ここはなんとしてでも耐えないといけない。息子ショーンのことを思うと、「絶対に生きながらえなくてはいけない」。しかし、前へ進むうにも、彼女の足をひっぱろうとする人たちが多数で、どうにもこうにも動けない感じだったんだ、と。

このままでは自分がだめになってしまう……そんな精神的にギリギリのときに始めたのが、Bless だそうです。

Bless you, Jack Blessyou Norman, Bless you Fred…… 夜ベッドの中で、頭に自然に浮かんだ名前を「Bless」していくのです。「Bless」=祝福です。「おかしなもので、口をついで出てくるのは私に対して嫌がらせや誹謗中傷をしている人たちの名前ばかりでした。『なんでこんな嫌な人たちばかり祝福してるんだろう』と思いつつも続けました」すると、1週間ほどした頃、気持ちに変化が現れたとか。嫌がらせをしたり、自分を傷つけようとした彼らに対する恨みが薄れてきたのだそうです。すると、同時に不思議なことが起きた。攻撃していた人たちが忙しくなったり、彼女に向けられていた嫌がらせの矛先が鈍ってきはじめてきたのだとか。

ペンリレー

小澤 智之

先日、甲府市の遊亀公園で甲府市名誉市民のグリーンバンク先生の石碑を見る機会がありました。甲府市から資料をいただいたので碑文を紹介いたします。

甲府市名誉市民 K・M・グリーンバンク女史之碑

キャサリン・マーサ・グリーンバンク女史は一八九一年(明治二十四年)十一月二十一日カナダに生まれ マニトバ大学を卒業後 教育にその使命を感じ 大正九年来日され爾来実に星霜三十有余年を甲府市に在住しとくに山梨英和女学校校長として真に民主的な学校運営により数々の新企画を執行され 今日の同学院発展の基礎を築かれたのであります また中途太平洋戦争のため帰国を余儀なくされましたが カナダにおいても在住日本人の福祉と教育に尽すいせられ日本人の理解を深めるため身をていして奔走されたのであります甲府空襲の報を聞くや「みをおく小屋さえあるならば・・・」と戦争の余じんくすぶる占領下の甲府へいち早く帰り再び山梨英和学院教師をつとめるとともに私生活においても隣人と生活を等しくし 甲府市民のために教育面ばかりでなく 社会奉仕にも日夜心を労されるなど女史の甲府に対する深い愛着は誠に驚嘆のほかありませんでした 昭和三十二年これらの功績により名誉市民に推挙され広く人々に顕彰されたのであります 昭和三十四年本国に帰国 昭和五十八年十月十四日九十一歳の生涯を終りましたがその半生を本市の女史教育と地方文化の興隆等に献身的に尽された慈母のごときお姿は 市民の等しく景仰するところであります ここに碑を建て女史の名とその徳を不朽のものといたします



昭和六十一年二月吉日 甲府市長 原 忠三 書

グリーンバンクはどのような教育を行ってきたのか?資料を読むと「愛の人」であることがわかります。グリーンバンクが綴った詩句の一部にそれが読み取れます。

○いばらの道にもものびて咲く花がある。何より暗い日にも輝く光がある。荒々しい、でこぼこの道を歩むには「勇気」があり、いちばん重い荷物を負う愛にも「力」があるのを、私の心よ、なお望み続けよ。雨の午後には美しい太陽がある。
「山梨英和 100 年」(1989 年) より

この詩句が綴られたのは満州事変の勃発に伴う軍国主義への足音が徐々に高まりつつあった頃です。生徒たちの心に安らぎをもたらすために綴った詩句には、生徒を愛する心が伝わってきます。愛を説くことが平和への第一歩だと改めて感じました。

◆YMCA便り◆

「かみさまからのおくりもの」

総主事 中田 純子

保育園の園長である私は、先日、親子遠足に行ってきました。お天気にも恵まれ空の下でのふれあい遊び、芝滑り、遊具遊び、動物園で動物探しを行い、ご家族の皆様と共に過ごす事ができました。

日頃できないご家族おひとりおひとりとの話ができて、それぞれの思いに触れることができました。また、興味のある物へ走る子、ママパパから離れない子、遊具でどろんどろん遊ぶ子、動物から離れない子、ずっとおしゃべりしている子、芝滑りが上手な子、ひとりひとりがそれぞれ自分を発揮し豊かな個性を表現してくれた喜びの時でもありました。家族の思い、こどもひとりひとりの個性に触れ、樋口通子さんの「かみさまからのおくりもの」という絵本が浮かびました。5人の赤ちゃんが生まれると天使が神様からの贈り物運び届け、その贈り物はひとりひとり違うという内容となっていて「ほっぺの赤い赤ちゃんにはよく笑う」「大きい赤ちゃんには、力持ち」「泣いている赤ちゃんには歌が好き」「よく動く赤ちゃんにはよく食べる」「すやすや寝ている赤ちゃんにはやさしい」がそれぞれに送られ、成長したこどもたちが感謝するものです。

園児とご家族を目の前にして、全ての人がそれぞれ大切な贈り物を受け取っている、その賜物を発揮していくことが大事だと実感します。それを発揮する場所こそがお互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会です。その社会を創り出す担い手がYMCAです。担い手として大事なことは、人と過ごすその時に感謝し、ひとりひとりが大事な存在であることを伝えていくことのできるかけがえのない場所であることが必要です。また、YMCAは地域と共生することで希望ある豊かな社会の創造を目指しています。

これらを実現するために、今後もワイズメンの皆様にはYMCAを理解し、YMCAに集い、お互いがそれぞれの賜物を輝かせ、共に喜びの時を過ごせる良きパートナーとしてお支えいただきますようお願いいたします。

ワイズメンの皆様の「かみさまからのおくりもの」は何ですか?

私のかみさまからのおくりものは天然 (=ポジティブ) かと……

皆さんの頷く姿が目には浮かびます。

